

## 【講演録】

平成二六年度企画展 総合研究棟（土魂商才館）開館記念

「伊藤忠兵衛家・長兵衛家同族事業経営の沿革

～地商いから商社へその2～」関連講演会

本日はご多用の中、当史料館秋季企画展関連講演会にご臨席たまわりありがとうございます。

本年度の講演会は例年と異なり、三つの講演を企画いたしました。私の報告に先立ちまして、この点について少しお話しさせていただきます。

本年度の企画展は「伊藤忠兵衛家・長兵衛家同族事業経営の沿革―地商いから商社へその2」と題して開催しております。これにつきましては、企画展図録の冒頭でご説明させていただいておりますので省略させていただきます。

当史料館では、伊藤忠兵衛家・長兵衛家・伊藤忠商事株式会社・丸紅株式会社のご高配を得て、伝来の史資料をご寄贈・寄託いただき、その整理、目録作成をさせていただいております。これらの史料群は、一〇年余の作業を経て、昨春にようやく六万点ほどであることが確認できました。引き続き細目録の作成作業が続けておりますが、目録完成までには、まだしばらくの時間が必要であります。

整理が終了するのはまだ先のことでありますので、公開に供することもできません。しかし、このままではどのような内容の史資料があるのか、この史料群によって研究をどれだけ深めることができるのかについては、整理している者にしかわからないこととなります。私どもの史

料館は史資料を保管し、整理・公開することを本務としておりますので、一日も早く状況をお知らせする機会を得たいと思つて参りました。幸い、昨春にようやくもつとも膨大な史料群である伊藤忠兵衛家文書が五万点余であることを確認できましたので、これを機にまず両伊藤家による事業経営の沿革を示す展示を行うことを企画した次第です。

とはいえ、史料は膨大にありますし、とても興味深いものが多く、いずれもこれまで知られていないものがほとんどですから、史資料の選択には大いに悩みました。しかし、現在の丸紅・伊藤忠商事がともに初代伊藤忠兵衛を創業者としていることや、豊郷町が発祥の地であることを知らない人々が多くなったことに鑑み、とりあえず今回は、忠兵衛家を中心に据えて創業期から新生の伊藤忠商事・丸紅両社が発足する昭和二四年までの流れを展示し、その流れのなかで分離・統合されている実態を示す店法や定款、あるいは会社概要を出陳いたしました。同時に、事業活動のなかで作成された史料として暗号帳などもご紹介し、経営活動の具体的な一面をお示しすることにしました。生の史料だけの展示では興ざめになることを恐れ、写真パネルや絵ビラなども掲げておりますので、お楽しみいただけるものと考えております。

ところで、関連講演会も例年になく三本をご用意いたしました。私は、後ほど企画展の主題に則してお話しさせていただきますが、それに先だって他のお二方のご紹介をさせていただきます。

今回の企画展関連講演につきましては、市場史研究会という「いちば」や「しじょう」の歴史研究をおこなっている学会と共催で実施しております。この学会では、とりわけ生鮮食品や日用品の流通、あるいは物流構造の歴史をさまざまな観点から取り上げて分析しています。今年が

研究会発足三〇年にあたります。日本のみならず、アジア・ヨーロッパの「いちば」「しじょう」の歴史解明に大きな成果を挙げ、社会に提供して参りました。しかし、一国規模での現状分析は、まだ限られた知識しか共有しておりません。ましてやグローバルな観点からの歴史研究は、会員のほとんどが取り組んだことがございません。そのため、現代日本において物流・商流の中心にいる総合商社の活動を学びたいという思いがありました。

そこで、伊藤忠兵衛さんゆかりの丸紅株式会社、伊藤忠商事株式会社、に食料品や日用品の取引において、どのような現状と課題が横たわっているのかお話し下さる方のご人選をお願いしました所、丸紅株式会社からは近藤孔明様、伊藤忠商事株式会社からは松林彰次郎様のご推薦をいただきました。

近藤様はご入社以来、一貫して農産物取引部門に所属され、グローバルな取引に従事されて来られました。近年は、農林水産省のグローバル・フード・バリエーション戦略検討会委員としても活躍されています。現在の日本はT P P問題で軸足が定まっていない状況にあります。我々が日々食料を口にするために、世界の食料品の生産―流通―消費という大きな流れのなかで丸紅、ひいては総合商社がどのような戦略をもっているのかについてお話しただけると思っています。

また、私どもはスーパーマーケットやコンビニエンス・ストアで日用品を入手することが、当たり前のように思っているわけですが、実際、これらの商品を配送する側に立ったとき、一体どのような問題が生じているのか、その現状と課題について、松林様にお話しいただきます。

松林様は、伊藤忠商事において入社以来物流部門に在籍され、国内外

において原料や商品を生産者・製造者から加工者・消費者の元へ届ける過程の諸問題について豊富な経験を積まれて参りました。現在は株式会社スーパーレックスに在籍されているのですが、私たち消費者にとつてごく身近な立ち位置におられます。ちなみにお生まれは長浜市で、お兄様は本学部のOBだと伺っております。

お二方ともに多忙な毎日を過ごされているにもかかわらず、本日のご講演を快くお引き受けいただきました。壇上からではございますが、心より感謝申し上げます。

また、本日は伊藤忠兵衛家からはご当主の勲様、ご子息の豊様はじめ、丸紅株式会社、伊藤忠商事株式会社、伊藤忠兵衛基金などの関係者にもご臨席たまわっています。この企画展の開催は、皆様方のご高配がなければ開催することはできませんでした。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

それでは改めて私の方から企画展に関わって、「両伊藤家伝来史料にみる事業経営の歴史」についてお話しさせていただきます。

〔付記〕

松林氏の講演「大型量販店物流システムの一例―物流の仕組みと課題―」は、紙幅の都合により、企画展を共催した市場史研究会の会誌『市場史研究』第三四号（二〇一五年五月発刊予定）に掲載いたします。